

居宅訪問型保育等における研修の取扱い

子育て支援員(仮称)研修制度に
関する検討会
第3回専門研修WT(地域保育)
平成26年10月23日

資料5

【居宅訪問型保育とは】

- 居宅訪問型保育事業とは、保育を必要とする乳児・幼児であって満3歳未満のものについて、当該保育を必要とする乳児・幼児の居宅において家庭的保育者による保育を行う事業とされている。（満3歳以上の幼児に係る保育の体制の整備の状況その他の地域の事情を勘案して、保育が必要と認められる児童であつて満3歳以上のものも対象）【児童福祉法第6条の3第11項】
- また、居宅訪問型保育事業では、障害、疾病等の程度を勘案して集団保育が著しく困難であると認められる乳幼児に対する保育等を提供することとされている。具体的には、以下の要件に該当する乳幼児となる。【家庭的保育事業等の設備及び運営基準第37条】
 - ① 障害、疾病等の程度を勘案して集団保育が著しく困難であると認められる乳幼児（第1項）
 - ② 保育所等の利用定員の減少等により便宜の提供が必要な乳幼児（第2項）
 - ③ やむを得ない理由により保育所等を利用することができない乳幼児（第3項）
 - ④ 保護者が夜間及び深夜の勤務に従事する場合等により居宅訪問型保育が必要と認められる母子家庭等の乳幼児（第4項）
 - ⑤ 離島その他の地域であつて、居宅訪問型保育事業以外の家庭的保育事業等の利用が困難な乳幼児（第5項）

【居宅訪問型保育の研修について】

- 児童福祉法第6条の3第11項において、居宅訪問型保育事業は家庭的保育者による保育を行う事業と規定されている。
- 子ども・子育て会議において、以下の対応方針（案）が示されている。
 - ・ 居宅訪問型保育事業に従事する保育者としては、保育士、保育士と同等以上の知識及び経験を有すると認められる者として、それぞれ必要な研修の修了を求めることを基本とする。
 - ・ 居宅訪問型保育事業の保育従事者に対して修了を求める研修については、現行の全国保育サービス協会が実施している認定研修の内容等も踏まえ、事業の位置付け（（6）③参照）等によって求められる専門性を習得するのに必要な内容について、検討していくことを基本とする。

居宅訪問型保育研修の科目・内容イメージ①

【居宅訪問型保育(基礎)①】

※家庭的保育事業の基礎研修と共通

科目名	区分	時間	内容	目的
乳幼児の発達と心理	講義	90分	①発達とは ②発達時期の区分と特徴 ③ことばとコミュニケーション ④自分と他者 ⑤手のはたらきと探索 ⑥移動する力(移動運動) ⑦こころと行動の発達を支える保育者の役割	○0歳から3歳くらいまでの乳幼児期の発達のポイントを理解するとともに、発達に応じた遊びやその安全性について考える。 ○子どもの発達を支える保育者の役割について理解を深める。
小児保健Ⅰ	講義	60分	①乳幼児の健康観察のポイント ②発育と発達について (母子健康手帳、予防接種について) ③衛生管理・消毒について ④薬の預かりについて	○保育を行う上で必要となる健康管理のポイントや疾病の予防と感染防止への対応、保育中の発症への対応などの基礎知識について学ぶ。 ○現場に生かせる、より具体的な対応を学ぶ。 ○健診や母子健康手帳の意義、記載内容について学ぶ。 ○予防接種について学ぶ。
小児保健Ⅱ	講義	60分	①子どもに多い症例とその対応 ②子どもに多い病気(SIDS等を含む)とその対応 ③事故予防と対応	○子どもに多い症状・病気を知りその対応を理解する。 ○小児に多い事故を理解し、その予防と対応を実践できる。 ○異物除去法、心肺蘇生法を理解し、緊急時に実践できる。
心肺蘇生法	実技	120分	①心肺蘇生法、AED、異物除去法	○乳幼児を対象とした救急救命が行えるように、その技術を身につける。
安全の確保とリスクマネジメント	講義	60分	①子どもの事故 ②子どもの事故の予防 保育上の留意点 ③緊急時の連絡・対策・対応 ④リスクマネジメントと賠償責任	○保育環境上起こりうる危険について理解し、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点について学ぶ。 ○万一事故が起こった場合の対応や報告について理解する。

居宅訪問型保育研修の科目・内容イメージ②

【居宅訪問型保育(基礎)②】

※家庭的保育事業の基礎研修と共通

科目名	区分	時間	内容	目的
気になる子どもへの対応	講義	90分	①気になる行動 ②気になる行動をする子どもの行動特徴 ③気になる行動への対応の考え方 ④気になる行動の原因とその対応 ⑤保育者の役割 ⑥遊びー日本に伝承されてきた育児法を用いるー	○0～2歳の気になる行動をどのように考え、どうかかわっていけばよいかを行動特徴の把握などをとおして学ぶ。 ○気になる子どもへの対応における保育者の役割を学ぶ。 ○遊びをとおして、子どもの発達を促す方法を学ぶ。
子ども虐待	講義	60分	①子ども虐待への関心の高まり ②子ども虐待とは ③子ども虐待の実態 ④虐待が及ぼす影響 ⑤子ども虐待の発見と通告 ⑥虐待を受けた子どもに見られる行動特徴 ⑦子どもが家で虐待を受けたと思われたならば ⑧不適切な関わりを防ぐために	○子ども虐待についての基本的事項を理解する。 ○保育における虐待の発見、対応の基礎を理解する。 ○保育者が虐待など不適切なかかわりをしないための配慮すべき事柄を理解する。
食事と栄養	講義	60分	①離乳の進め方に関する最近の動向 ②栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント ③食物アレルギー ④家庭的保育者(居宅訪問型)が押さえる食育のポイント	○離乳の進め方に関する最近の動向を理解する。 ○幼児期の昼食作りに役立つ栄養バランスのポイント、食品衛生の基礎知識を理解する。 ○食物アレルギーについての理解を深める。 ○保育者がおさえる食育のポイントを理解する。
実施自治体の制度について(任意)	講義	60分	①自治体の保育制度など	○実施自治体の保育関係施策や関係機関について理解する。

時間数： 1 1 時間

居宅訪問型保育研修の科目・内容イメージ③

【居宅訪問型保育(基礎)③】

※居宅訪問型に特有の内容

科目名	区分	時間	内容	目的
居宅訪問型保育の概要	講義	60分	①児童家庭福祉における居宅訪問型保育の社会的背景、経緯、歴史 ②訪問型保育の実態 ③居宅訪問型保育事業の概要 ④地域子ども・子育て支援事業における訪問型保育の展開 ⑤訪問型保育の有効性と課題	○児童家庭福祉における居宅訪問型保育の社会的背景、経緯、位置づけを把握する。 ○居宅訪問型保育の特徴を理解し、保育所保育との共通点、相違点を把握する。 ○居宅訪問型保育の運営基準を理解する。 ○地域子ども・子育て支援事業における居宅訪問型保育の意義や特徴について理解する。
居宅訪問型保育における環境整備	講義	60分	①保育環境を整える前に ②居宅訪問型保育に必要な環境とは ③環境のチェックポイント	○保育環境の整備にあたり、基本的な考え方と配慮事項を理解する。 ○児童の居宅であることをふまえた環境整備の必要性を理解する。 ○保育に必要な設備・備品を確認し、自己点検を行えるようにする。
乳幼児の生活と遊び	講義	60分	①子どもの発達と生活 ②子どもの遊びと環境 ③人との関係と保育のねらい・内容 ④子どもの一日の生活の流れと役割	○発達・成長過程に応じた子どもの生活への1対1の関わり方や援助方法について理解する。 ○1対1で行う子どもの遊びについて理解する。 ○生活の中で様々な人との関わりあいが、子どもの発達を促すことについて理解する。 ○子どもの一日の生活の流れの中で、居宅訪問型保育の保育者の役割を理解する。

居宅訪問型保育研修の科目・内容イメージ④

【居宅訪問型保育(基礎)④】

※居宅訪問型に特有の内容

科目名	区分	時間	内容	目的
居宅訪問型保育の保育内容	講義 ・ 演習	120分	①訪問型保育を利用する家庭(子ども・保護者)のニーズ ②訪問型保育の特徴 ③訪問型保育における配慮事項 ④訪問型保育の実際 ⑤訪問型保育における計画と記録	○居宅訪問型保育を利用する家庭のニーズについて理解する。 ○居宅訪問型保育の特徴と配慮しなければならない事項について演習を通じて理解する。 ○居宅訪問型保育の計画と記録の書き方を学び、様々な家庭状況に応じた計画の必要性を理解する。
居宅訪問型保育の運営	講義	60分	①訪問型保育の業務の流れ ②保育中の注意事項 ③記録、保護者への報告 ④事業所及びコーディネーターへの連絡、チームワーク ⑤訪問型保育者のマナー	○居宅訪問型保育の保育者の職務を理解する。 ○情報提供の方法、受託前の利用者との面接、記録や報告の管理などについて学ぶ。 ○事業者(コーディネーター)との連携について理解する。 ○児童の居宅で保育を行う訪問型保育者の姿勢について理解する。
家庭的保育者(居宅訪問型)の職業倫理と配慮事項	講義 ・ 演習	90分	①職業倫理 ②自己管理 ③地域との関係 ④保育所や様々な保育者との関係 ⑤行政との関係	○保育者としての基本姿勢(保育マインド、プライバシーの保護と守秘義務(個人情報の保護)、自己研鑽)について理解する。 ○保育者の自己管理について学ぶ。 ○地域住民との関係づくりについて考え、学ぶ。 ○保育所や様々な保育関係者との関係、行政との関係などについて考え、学ぶ。
居宅訪問型保育における保護者への対応	講義 ・ 演習	90分	①訪問型保育における保護者支援の必要性 ②さまざまな家庭における家族との関わり方 ③訪問型保育における子育てアドバイス	○保護者が協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を理解するとともに、それに必要な知識と技術を身につけるようにする。 ○保護者との対応において、保護者との信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解を深める。

居宅訪問型保育研修の科目・内容イメージ⑤

【居宅訪問型保育(基礎)⑤】

科目名	区分	時間	内容	目的
実践演習 I	演習	1~2日	①居宅訪問型保育の実際(DVD等の教材の視聴) ②実践を想定した演習 ③グループ討議(90分を含める)	○居宅訪問型保育の具体的な内容をイメージすることができるようになる。

時間数：9時間＋1～2日

居宅訪問型保育研修の科目・内容イメージ⑥

【居宅訪問型保育(専門)①】

科目名	区分	時間	内容	目的
子どもの成長・発達(障害の理解)	講義	60分	①障害とは(障害の捉え方・児童の権利の保障について) ②障害の理解 1身体障害、2知的障害、3発達障害 ③成長・発達への支援(生活・あそび) ④障害のある子どもの心理 ⑤家族との関わり ⑥障害児のある子どもを取り巻く環境(現状・福祉サービス・家庭・関係機関との連携等) ⑦安全対策・感染予防対策(リスクマネジメント・事故防止・業務の範囲)	○障害への理解を深める。 ○障害のある子どもの成長・発達について理解し、その支援方法について学ぶ。 ○障害のある子どもの心理を理解する。 ○障害のある子どもがいる家庭、家族への支援の必要性について理解する。 ○障害のある子どもに関する福祉制度や機関について学び、取り巻く環境について理解する。 ○障害のある子どもに対する安全対策・感染予防対策等について理解する。
子どもの健康管理(慢性疾患児)	講義	60分	①慢性疾患とは ②さまざまな慢性疾患と症状の理解 ③成長・発達への支援(生活・あそび) ④慢性疾患の子どもの心理 ⑤家族との関わり ⑥慢性疾患のある子どもを取り巻く環境 ⑦安全対策・感染予防対策(リスクマネジメント・事故防止・業務の範囲)	○慢性疾患への理解を深める。 ○慢性疾患の子どもの成長・発達について理解し、その支援方法について学ぶ。 ○慢性疾患の子どもの心理を理解する。 ○慢性疾患の子どものいる家庭、家族への支援の必要性について理解する。 ○慢性疾患のある子どもに関する福祉制度や機関について学び、取り巻く環境について理解する。 ○慢性疾患の子どもに対する安全対策・感染予防対策等について理解する。
小児保健Ⅲ	講義	90分	①疾病の症状への対応の仕方 ②家庭との連携 ③施設や医療機関等との連携	○疾病の症状のある子どもへの基本的な対応方法について理解する。 ○疾病により対応が必要となった場合に、家族との事前の取り決め、連携等の必要性について理解する。 ○疾病により対応が必要となった場合に、施設や医療機関等との事前の取り決め、連携等の必要性について理解する。

居宅訪問型保育研修の科目・内容イメージ⑥

【居宅訪問型保育(専門) ②】

科目名	区分	時間	内容	目的
居宅訪問型保育の展開Ⅰ(慢性疾患の子ども保育)	講義	90分	①慢性疾患の子どもの訪問型保育の特徴 ②慢性疾患の子どもの訪問型保育における配慮事項、注意事項 ③慢性疾患の子どもの訪問型保育の実際 ④慢性疾患の子どもの訪問型保育における計画と記録	○居宅訪問型保育における慢性疾患の子どもに対する保育の特徴について理解し、具体的な支援方法について学ぶ。 ○慢性疾患の子どもに対する配慮や注意が必要な事項等について理解する。 ○慢性疾患の子どもに対する保育計画と記録について学び、様々な家庭状況に応じた計画の必要性を理解する。
居宅訪問型保育の展開Ⅱ(障害のある子ども保育)	講義	90分	①障害のある子どもの訪問型保育の特徴 ②障害のある子どもの訪問型保育における配慮事項、注意事項 ③障害のある子どもの訪問型保育の実際 ④障害のある子どもの訪問型保育における計画と記録	○居宅訪問型保育における障害のある子どもに対する保育の特徴について理解し、具体的な支援方法について学ぶ。 ○障害のある子どもに対する配慮や注意が必要な事項等について学ぶ。 ○障害のある子どもに対する保育計画と記録について学び、様々な家庭状況に応じた計画の必要性を理解する。
実践演習Ⅱ	演習	2日	①視聴覚教材(DVD、過去のTV番組等)を使用し、病棟での保育や障害児施設等の現場を学ぶ ②実践を踏まえた演習、実技(生活への支援・介助の他、器具等の紹介や説明なども含む) ③グループ討議	○慢性疾患の子どもや障害のある子どもに対する対応について学び、保育に対するイメージを持つ。 ○演習を通じ、行う保育内容について理解する。

(注) 対象となる子どもが決まり次第、関係施設と連携し、対象となる子どもの対応に必要な実習等を行う。

時間数：6. 5時間＋2日

全体の合計時間数：26. 5時間＋3～4日⁸